

**S B I インシュアランスグループ株式会社****2026年3月期第2四半期決算説明の要旨****(2025年11月13日)**

## 関連資料

1. 2026年3月期第2四半期 決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）（動画）
2. 2026年3月期第2四半期 決算説明資料（プレゼンテーション資料）

掲載先 URL： <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

当社社長が行いました上記ご説明の要旨を以下に記載いたしました。必要に応じてご参照くださいますようお願いいたします。

（前略）

## &lt;連結業績&gt;

- ・ 本日（11月12日11時30分）公表した第2四半期決算についてご説明します。
- ・ （プレゼンテーション資料（以下「資料」）P.4）2026年3月期第2四半期の連結業績は、経常収益が前期比 20.7%増加の 692 億 1 千 1 百万円。経常利益が 50.1%増加の 73 億 7 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が 38.6%増加の 22 億 5 千 4 百万円でした。当四半期も3項目ともに第2四半期累計としての過去最高金額でした。
- ・ （資料 P.5）第2四半期における経常収益の推移です。この数年は、10%弱の増加率が続いていましたが、当第2四半期は 20.7%の大幅な増収でした。主な要因は、保有契約件数の増加に伴う保険料の増収ですが、近年、保険金支払いが増加傾向にあることを鑑みて行ってきた保険料の見直しが増収に貢献したことや、生命保険事業において特別勘定の収益を計上したことが、増収

幅を押し上げました。

- ・（資料 P.6）保有契約件数は3事業共に増加し、前年同月末比 5.3%増加の 307 万件でした。
- ・（資料 P.7）収入保険料も3事業共に増加し、11.5%増加の 588 億9千5百万円でした。
- ・（資料 P.8）経常利益。当第2四半期は増収効果により 50.1%の大幅な増益でした。経常利益の金額は、5年前の同期間と比べると 3.3 倍です。
- ・（資料 P.9）（親会社株主に帰属する中間）純利益でございます。税金費用が増加しましたが、ご案内の増収の効果がこれを吸収して 38.6%の大幅な増益でした。純利益の金額は、5年前の 2.9 倍です。
- ・（資料 P.10）通期の業績予想に対する進捗率は、経常収益 52.8%、経常利益 66.4%、純利益 90.2%です。順調ですが、当社の業績は、損保事業で自然災害が大きく影響するリスクがありますので、この冬の雪の状況を見たうえで、第3四半期の決算速報時に（通期の業績予想の）修正の可否をあらためて判断することとさせていただきます。
- ・（資料 P.11、12）当社は、2030 年3月期の第1四半期より、IFRS を任意適用する予定です。親会社である SBI ホールディングスの IFRS に基づく連結業績に含まれる、当社グループの税引前利益は、56 億7千3百万円でした。日本基準の 30 億8千9百万円に対して、IFRS の利益が 1.8 倍と大分大きく測定されています。この傾向は生命保険事業で顕著であり、当社では、原則として、期末に向けて生保事業の利益が大きくなるため、この利益の倍率も期末に向けて高まる傾向があります。前年度通期では、（SBI ホールディングスの連結業績に含まれる）IFRS に基づく税引前利益は、日本基準に対して約 2.9 倍の大きさでした。

#### <セグメントごとの経営成績>

- ・経常収益は、3事業共に増加しました。経常収益の構成比は、損保事業 32.6%、生保事業 41.7%、少短事業 25.7%でした。
- ・セグメント利益も3事業共に増加しました。セグメント利益の構成比は、損保事業が一番大きいことに変わりはありませんが、少短事業が生保事業を上回る 5 億6千9百万円の利益を計上した

結果、損保事業 60.5%、生保事業 17.8%、少短事業 21.7%でした。

#### <損害保険事業>

- ・保有契約件数は、前年同月末比 3.2%の増加。このうち実損填補型のがん保険は 8.6%の増加でした。
  - ・元受正味保険料は、前年同期比 9.6%の増加。経常収益は、12.2%の増加でした。
  - ・セグメント利益は、税金費用の増加といった一時的な要因がありましたが、11.4%の増加でした。
- 右のグラフは税引前の前年同期比で、税引前の利益は 49.2%の増加でした。
- ・コンバインド・レシオは、1.5 ポイントの上昇。総資産は、15 億 7 千万円の増加。ソルベンシー・マージン比率は、50.7 ポイントの上昇でした。

#### <生命保険事業>

- ・保有契約件数は、17.5%の増加。このうち団体信用生命保険は、21.0%の増加でした。
- ・保険料収入は、19.5%の増加でした。
- ・経常収益は、運用実績を契約者に直接還元する特別勘定の資産運用益を計上したため、保険料収入を大きく上回る 39.1%の増加でした。
- ・セグメント利益は、36.8%の増加。保険収支は、19.1%の増加でした。
- ・総資産は、33 億 4 千万円の増加。ソルベンシー・マージン比率は、12.5 ポイントの上昇でした。

#### <少額短期保険事業>

- ・保有契約件数は、1.3%の増加。このうち、ペット保険は 1.1%の増加でした。
- ・保険料収入は、6.4%の増加。経常収益は、7.5%の増加でした。
- ・セグメント利益は、先ほどご案内のとおり、大幅に増加しました。
- ・（資料 P.28）当社は、どんどん利益を稼いで、どんどん配当することを基本方針としています。

目標配当性向は 30%でしたが、当年度から 10 ポイント引き上げて 40%程度としたので、会社の利益が増えれば、×40%程度、配当を増やして参ります。前年度の配当実績は 1 株あたり 23 円、当年度の配当予想は 1 株あたり 40 円です。今後 5 年、10 年と長期にわたる利益成長を目指して

いますので、（それが実現すれば、）配当はさらに増えていきます。

- ・（資料 P.29）配当に加えて、10月29日には、株主優待の開始を公表しました。暗号資産のXRPを受け取ることのできる優待制度です。所定の条件の下、来年3月末の当社の株主様へ、保有株式数と継続保有期間に応じてXRPを進呈いたします。この優待制度を、主に個人投資家の皆様との長期・安定的な関係を築く切掛けとできればと考えています。
- ・株式の取得価格その他の条件に応じて結果が変わるため、試算には注意が必要ですが、100株を保有してXRPを2,500円受け取った場合の優待利回りは何%、配当が予想どおり1株40円となると予想配当利回りは何%、両方合わせれば約何%というようになります。
- ・（資料 P.30）SBIグループは、銀行・証券・保険を中心とした総合金融グループですが、11月1日付でグループ内の各種金融サービスを、各パートナー企業に対して、まとめて提供できる「金融総合プラットフォーム」を開発する新会社を設立しました。パートナー企業は、プラットフォームを通じて、自社の顧客へSBIグループ各社の金融機能を提供します。
- ・このようなSBIグループ各社の業態を横断した取り組みも始まっていますので、ご期待ください。ご清聴、ありがとうございます。